

問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで一切開かないでください。

令和 6 年度

液化石油ガス設備士

法令試験問題

LX

試験時間 9 : 30 ~ 10 : 30

注意事項

- (1) 配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。
万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。
- (2) 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。
- (3) この試験は電子計算機で採点しますので、答案用紙に記入する際には、記入方法を間違えないように特に注意してください。
電子計算機は、黒く塗りつぶした ● の部分を読みとります。
- (4) 試験問題の解答は多肢選択式です。解答は、各問題の下に掲げてある(1)~(5)の中から、**最も適切なものを1問につき1個だけ選んでください**。1問につき2個以上選択した場合には、その問題については0点になります。
- (5) 解答は、次の例にならって、答案用紙の所定の欄にマークしてください。
「記入例」
問 次のうち正しいものはどれか。
(1) A (2) B (3) C (4) D (5) E
(3)を選択する場合には、

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
○	○	●	○	○

のように、○の枠いっぱいにはみ出さないようにHB又はB鉛筆で黒く塗りつぶしてください。
- (6) 試験問題に関する質問にはお答えできません。
- (7) 「問題用紙」及び「答案用紙」は、試験監督員の指示に従い必ず提出してください。

設備士(法)LX

次の各問について、特に記述のない場合、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液化石油ガス法」という。）に係る法令上正しいと思われる最も適切な答えをその問の下に掲げてある(1)、(2)、(3)、(4)、(5)の選択肢の中から1個選びなさい。

なお、この試験は、次による。

- (1) 令和6年4月1日現在施行されている法令に基づき出題している。
- (2) 経済産業大臣が危険のおそれのないと認めた場合等における規定は適用しない。

問1 次のイ、ロ、ハの記述のうち、液化石油ガス法に係る法令上正しいものはどれか。

イ、「液化石油ガス」の主成分として、プロパン、ブタン及びプロピレンが定められている。

ロ、液化石油ガス法は、一般消費者等に販売する液化石油ガスの料金が高騰したときに、その料金を規制することにより、公共の福祉を増進することを目的としている。

ハ、「充てん容器」とは、現に液化石油ガスを充てんしてある容器であって、液化石油ガスが充てんされた後にその液化石油ガスの質量が充てん時における質量の2分の1以上減少していないものをいう。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問2 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム未満である容器（バルク容器を除く。）による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ、充てん容器等（内容積が5リットル以下のものを除く。）には、転落、転倒等による衝撃及びバルブ等の損傷を防止する措置を講ずるとともに、浸水のおそれのある地域においては、その充てん容器等が浸水によって流されることを防止する措置を講ずること。

ロ、充てん容器等（内容積が20リットル以上のものに限る。）には、当該容器を置く位置から2メートル以内にある火気をさえぎる措置を講じ、かつ、特に定められた場合を除き、屋外に置くこと。

ハ、充てん容器等は、常に温度40度以下に保つこと。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問3 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム以上3000キログラム未満の容器（バルク容器を除く。）による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 貯蔵設備は、その外面から、第一種保安物件に対し16.97メートル以上、第二種保安物件に対し11.31メートル以上の距離を有すること。ただし、第一種保安物件又は第二種保安物件に対し、鉄筋コンクリート障壁等を設けた場合は、この限りでない。

ロ. 貯蔵設備は、その外面から火気（当該貯蔵設備に附属する気化装置内のものを除く。）を取り扱う施設に対し5メートル以上の距離を有し、又は当該貯蔵設備とその火気を取り扱う施設との間に所定の措置を講ずること。

ハ. 貯蔵設備には、消火設備を設けること。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問4 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム未満のバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. バルク貯槽を所定の基準により地盤面下に埋設した場合には、その外面から、第一種保安物件に対し1.5メートル以上、第二種保安物件に対し1メートル以上の距離を有しなくてもよい。

ロ. バルク貯槽を所定の基準により地盤面下に埋設した場合には、その外面から2メートル以内にある火気をさえぎる措置を講じなくてもよい。

ハ. バルク貯槽又は当該バルク貯槽の周囲の見やすい箇所に、液化石油ガス又はLPガス及び火気厳禁と朱書すれば、緊急連絡先を表示しなくてもよい。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問5 次のイ、ロ、ハの記述のうち、地盤面下に埋設した貯蔵能力が950キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ. バルク貯槽の頂部が地盤面から25センチメートル下になるよう埋設した。

ロ. 所定の方法で、バルク貯槽に地下水による浮き上がりを防止する措置を講じた。

ハ. 埋設後のバルク貯槽の位置を示すための標識杭を、そのバルク貯槽の水平投影面の四隅に設置したので、そのバルク貯槽の周囲にはガス検知用の孔あき管を設けなかった。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) ロ、ハ

問6 次のイ、ロ、ハの特定供給設備に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- イ. 特定供給設備の気化装置は、直火で直接液化石油ガスを加熱する構造のものを使用できる。
- ロ. 貯蔵能力が5000キログラムである地盤面上に設置する貯槽は、特に定められた場合を除き、その外面から、第一種保安物件に対して16.97メートル以上の距離を有すること。
- ハ. 貯蔵能力が2900キログラムである地盤面上に設置したバルク貯槽は、その支柱と基礎をアンカーボルトで強固に固定すれば、自動車等車両が接触しない措置は講じなくてもよい。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ハ (5) ロ、ハ

問7 次のイ、ロ、ハの記述のうち、保安業務区分とその業務の内容が正しいものはどれか。

- イ. 保安業務区分のうち「周知」は、液化石油ガスを消費する一般消費者等に対し、液化石油ガスによる災害の発生の防止に関し必要な所定の事項を周知させる業務である。
- ロ. 保安業務区分のうち「緊急時対応」は、液化石油ガスによる災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、当該液化石油ガスに係る一般消費者等からその事実を通知され、これに対する措置を講ずることを求められたとき、又は自らその事実を知ったときに、速やかにその措置を講じる業務である。
- ハ. 保安業務区分のうち「緊急時連絡」は、液化石油ガスによる災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、当該液化石油ガスに係る一般消費者等からその事実を通知され、これに対する措置を講ずることを求められたとき、又は自らその事実を知ったときに、速やかにその措置を講じる業務を、自ら出動することなく行うものである。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ロ、ハ

問8 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

- イ. 配管は、使用上支障のある腐しよく、割れ等の欠陥がないものでなければならないが、末端ガス栓と燃焼器の間の管については、この基準は適用されない。
- ロ. 配管は、その設置又は変更（硬質管以外の管の交換を除く。）の工事の終了後に行う8.4キロパスカル以上の圧力による気密試験に合格するものでなければならない。
- ハ. 配管は、漏えい試験に合格するものでなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問9 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. ガスメーターと燃焼器の間の配管その他の設備は、燃焼器の入口における液化石油ガスの圧力を、生活の用に供する液化石油ガスに係るものにあつては、2.0キロパスカル以上3.3キロパスカル以下に保持しなければならない。

ロ. 建物の基礎面下に設置する配管には、損傷を防止する措置を講じなければならない。

ハ. 電源により操作される気化装置により発生する液化石油ガスが通る配管には、特に定められた場合を除き、手動復帰式自動ガス遮断器を設けなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問10 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 末端ガス栓と燃焼器とを硬質管、液化石油ガス用継手金具付低圧ホース、ゴム管等を用いて接続する場合は、その使用条件に照らし適切なものを用いること。

ロ. 屋内に設置した自然排気式の高スバーナー付きふろがま（密閉式のものを除く。）の排気筒（排気扇が接続されているものを除く。）の先端は、屋外に出し、かつ、障害物又は外気の流れによって排気が妨げられない位置に設置すること。

ハ. 屋内に設置する液化石油ガスの消費量が12キロワットを超える自然排気式の高ス瞬間湯沸器（密閉式のものを除く。）の排気筒は、振動などにより燃焼器本体が損傷することを防止するため、その燃焼器の排気部との接続部は容易に外れるように取り付けること。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ロ、ハ

問11 次のイ、ロ、ハの供給設備又は消費設備の設置又は変更の工事に係る作業のうち、液化石油ガス設備士でなければ従事してはならないものはどれか。

イ. 同一型式の高ス栓の交換に係るその高ス栓と硬質管の取り外しの作業

ロ. 漏えい試験の作業

ハ. 気密試験の作業

- (1) イ (2) ハ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問12 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備工事のうち、その設備工事を行った者が、遅滞なく、その旨をその設備工事を行った施設又は建築物の所在地を管轄する都道府県知事（指定都市の区域内にあっては、指定都市の長）に届け出なければならないものはどれか。

- イ．料理飲食店の調理のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が500キログラムである液化石油ガスの供給設備の設置の工事
- ロ．ホテルの厨房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が800キログラムである液化石油ガスの供給設備に係る消費設備の配管を延長する変更の工事
- ハ．病院の厨房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その液化石油ガスの供給設備の貯蔵能力を400キログラムから900キログラムに増加する変更の工事

(1) ロ (2) ハ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問13 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定液化石油ガス設備工事及び特定液化石油ガス設備工事業業者について正しいものはどれか。

- イ．特定液化石油ガス設備工事業業者は、記録を作成しなければならない特定液化石油ガス設備工事をしたときは、その工事に係る記録及び配管図面を、その工事に係る事業所において5年間保存しなければならない。
- ロ．同一型式のガス栓を交換する際、そのガス栓と硬質管の接続に係る工事は特定液化石油ガス設備工事に該当しない。
- ハ．特定液化石油ガス設備工事業業者は、2以上の都道府県に事業所を設置してその事業を行おうとするものにあつては、事業の開始の日から30日以内に、所定の事項を経済産業大臣に届け出なければならない。

(1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ロ、ハ

問14 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備士に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- イ．液化石油ガス設備士は、特に定められた場合を除き、液化石油ガス設備士免状の交付を受けた日の属する年度の翌年度の開始の日から3年以内に、所定の液化石油ガス設備工事に係る災害の発生の防止に関する第1回の講習を受けなければならない。
- ロ．液化石油ガス設備士は、硬質管の寸法取りの作業だけに従事するときであっても、液化石油ガス設備士免状を携帯していなければならない。
- ハ．都道府県知事は、液化石油ガス設備士がガス事業法の所定の規定に違反したときは、その液化石油ガス設備士免状の返納を命ずることができる。

(1) イ (2) ロ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問15 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に係る法令上正しいものはどれか。

イ. 特定工事事業者が特定工事を施工したときに表示すべき事項として、液化石油ガス設備士が当該特定工事を実地に監督したときは、その氏名及び液化石油ガス設備士免状の番号がある。

ロ. 液化石油ガス設備士の資格を有する者でなければ、自ら特定工事を行うことはできない。

ハ. 特定工事を施工している場所において、特定ガス消費機器の安全装置の機能を喪失させてはならないことを指示することは、特定工事の監督の方法に含まれない。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) ロ、ハ

